

●綾先生から便りが届きました。

綾です。やっと秋らしくなって来ましたが、お元気ですか？

10月24日の毎日新聞の大阪地方欄に先日の木津川での釣り大会の記事が掲載されました。

内容は京都地方欄のものと同じですが写真が1枚になって白黒でした。一度の行事で場所が異なるとはいえ、2回も載って、「一粒で二度、美味しい」とはこのことで、イタセンネットの広報にも役立ちました。

たまたま、10月24日の同じ新聞に「暮らしナビ環境」という特集記事があって「外来種被害減らせるか」との見出しのもとに二つのインタビュー記事が掲載されていました。その一つに、昔からの知人である生態工房の片岡友美理事長のインタビュー記事が載っていました。

生態工房は東京の井の頭公園の池のかいぼりを10年以上続けて、生態系の再生に成功しているNPOです。

木津川釣り大会の記事中の「30年後にはイタセンパラが復活している木津川にしたい」という83歳の山村理事長のことばと暮らしナビのインタビューの記事では「外来種だらけの現状を見て諦めることなく、対策に取り組んでいくことで生態系を再生していくことができる」という片岡さんの言葉は、ご承知のように、目下の城北の状態は最悪で、ともすれば失われてしまいそうな力を呼び戻してくれます。

●京の川の恵みを生かす会と韓国清州市持続可能発展協議会との交流会 10月28日 キャンパスプラザ 80人

この日の韓国側の出席者は、清州市持続可能発展協議会常任議長：忠北大学教授、清州市持続可能発展協議会運営委員長：清

州大学教授、清州市持続可能発展協議会から事務局長と博士2名、世翰大学教授、忠北大学博士2名、忠北大学生9名が来られていました。日本側の出席者は竹門康弘、中筋祐司(京の川の恵みを生かす会・副代表)、佐藤和輝(京都大学大学院農学研究科、賀茂川漁業協同組合)、横田康平((株)知能情報システム)、山村武正(やましろ里山の会)、重原奈津子(きょうと生物多様性センター)、澤井健二(京都水辺保全ネットワーク会長・元摂南大学教授)、瀬田尚史(京都府水産課)、河野誠(京都市農林振興室農林企画課)、村北佳史(京都市農林振興室農林企画課)、宮田孝司、畑中啓吾(大阪市漁業協同組合)の皆さんでした。里山の会からは播川理事も出席され、多くの方と交流を深められました。



●京の川の恵みを生かす会 食味会風景 10月29日 京大 宇治川ラボラトリー 100人

この日は昼前に降雨がありましたが小雨だったのでうまく乗り越えることができました。アユ焼きの木炭の火も消えることなく(里山の会提供の木炭30kg)役立ちました。メインの魚はア

ユで、鴨川、保津川 淀川、桂川、天竜川などで捕獲したものを食べ比べ出来ました。とっておきの高級漁のビワマスのは竹門先生が琵琶湖で釣り上げてきたものををさばいてふるまっていただきました。開会式で環境省の近畿地方環境事務所の生息地保護連携専門官の平井和登さんから挨拶があり、こうした取り組みによって生き物たちが多くの皆さんによって守られていくことを願っていますと挨拶がありました。またこの校内は一般の方々が容易に入り難いとの環境条件を生かして活動されることにも大いに期待していますと付け加えられました。当日参加したのは播川さんと有田さん、それに山村で、平井様に



里山の会がイタセンパラの復活を目指して取り組んでいることを紹介しておきました。昨日に引き続き参加の韓国の皆さんからは昨日の中聖牛や竹蛇籠の取り組みと子どもにやさしい川作りについて皆さんの奮闘ぶりがよく伝わりました。などと声が寄せられました。また3号4号中聖牛製作や蛇籠製作に奮闘してくれた田住君も国交省広島事務所に就職

したけれど現在は国交省の東京勤務で河川企画の仕事をしているとのことでしたが、食味会のためにわざわざ駆けつけてくれて沢山の話題提供をいただきました。

●10月28日 竹ペン製作のうち最初の竹割作業

1000本ができました1時間の手作業で100本が割り出せることがわかりました。木下さんが作った第2号機の成果です



●10月30日 京田辺市商工会の経営支援員の小西健太郎氏が竹ペン製作の相談にお越しいただきました。

1000本が完成したので、機械化ができるだろうかと声をかけてみましたところ、都合をつけてこの日、製作現場を視察にお越しいただきました。この取り組みは、福祉、農業、環境などに対する課題への試みで、考えられる使用先は環境問題に理解のあるところで、どうでしょうか（各自治体の選挙時の試用、その他）と説明をしてみました。工業部長に相談の上返答することでした。さらに機械化の経費を見積もってみましょうかとの話にまで進みました。

●10月31日 会誌 里山の自然 55号発送

それまで山村常務理事が製本完成にむけて頑張っていたいただきました。前日は播川、金田さんで封筒の宛名や差出人の印刷・製本テープの寸法切り等の細かい作業を進めていただきました。又、31日（火曜日）は農園作業日でしたが、会誌発送に播川、森島、太田、伊藤、大村、金田、山村の7人と新型印刷機でのデモンストレーションでアヴィニールの職員さんにも応援していただき、カラー印刷で200部印刷することができ、手配りと宅急便に分け無事発送作業が完了しました。

●木津川の希少種生育調査管理業務のうち11月1日の13時から木津川市加茂町の小谷地区（管理地34・35番地）と渦の樋門（29番）の除草作業を太田、森島、播川さんが行いました。

11月1日は9:30から定例の事務局会議で総括と課題やイベント概要を決めて、午後から除草作業を実施。こうした過密消化（事前準備）をしていただいて里山の会の各種のイベントが順調に回転することができているのです。ご奮闘大変ありがとうございます。

●2023年度竹蛇籠製作講習会実施 11月3、4、5日 9:30から 参加料無料 木津川玉水橋東詰め広場

講師：竹門康弘 スタッフ：太田、有田、森島、播川、杉本さんと友人2人 蛇籠6mもの6本製作（2日間で完成予定）

2015年に設置した竹蛇籠が長年の増水に負けず頑張ってくれましたが、竹寿命が尽きて形を残すのみになってきました。右岸に設置した蛇籠は固定杭が設置場所を示すのみになっています。また一昨年に本川に設置した竹蛇籠は今年2回の増水によって杭を残すのみになっています。しかし本川、中ほどに島状の土砂山が出来上がってきています。今年2回の増水の影響ででしょうか大きな砂州は砂がなくなり小石の河原に姿を変えています。そして降雨が非常に少なく水位が大変減少して水の流れている幅がこれまでに狭くなっています。今年は一昨年の竹蛇籠設置の前に将棋頭状に6mものを設置したいとの計画です。それで6本の竹蛇籠を製作しますので、皆さんの製作に参加くださることを呼びかけます。午前中からの作業計画ですが、今年が良い天気の前報ですのでご参加下さることをお願いします。

しっかりした靴、水筒、作業用の長袖長ズボン、軍手、帽子をご準備の上お越しく下さい。